

経済学研究科

I	教育水準	教育 17-2
II	質の向上度	教育 17-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、所属教員のほとんどが学位を有し、国際公募制による若手教員の採用を実施しているほか、平成 17 年度に金融システム専攻を新設したなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、専攻会議やマイクロ・マクロ運営会議で集団指導のための情報の共有をするなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、一部の分野で、修士 1 年次向けの必修科目を設定し、修士論文作成や大学院博士後期課程進学の内容とするなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、他大学、他学部や海外からの学生が多いことに対応して、スクーリング授業や英語の授業を増やしたほか、統計学及び経済史では一橋大学との単位互換協定を結び、さらに経営関係では学部と大学院博士前期課程の 5 年一貫教育を行うなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、教育者になるためのオン・ザ・ジョブ・トレーニング（OJT）として、大学院生をティーチング・アシスタント（TA）に従事させるほか、英語の授業、外国人を招いたワークショップの開催等で英語に接する機会を増やしたなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、ワークショップへの参加、リサーチ・アシスタント（RA）の雇用のほか、学会報告への資金援助や日本経済国際共同研究センターのディスカッションペーパーへの執筆機会を与えるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学会報告数、課程博士取得数とも多く、特に国際ジャーナルへの英文発表論文数が平成 15 年以降で 67 本に達したなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学会報告、学位取得、専門雑誌への投稿と発表が増大するなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

特に、平成 15 年の 21 世紀 COE プログラム取得後の 4 年間で、博士及びポストクの学生による一流の国際ジャーナルでの発表論文は 67 件に及ぶ。その内訳を見ると、平成 15 年度から平成 19 年度の間で、2 件、7 件、14 件、22 件、22 件（forthcoming を含む）と増加していることは、特筆すべき状況であるという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、大学院博士後期課程修了者が研究職、金融機関・シンクタンク等の研究調査の職につくケースが出ているほか、同前期課程修了者から米国等の大学院に留学して学位を取得するものが少なくないなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、日本学術振興会の特別研究員に DC（博士課程在学者）21名、PD（博士課程修了者）4名が採用されたなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、経済学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、経済学研究科が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。